

川のはとりに住んでいる。時間ができると5歳の孫と河原まで走っていく。この夏も蝶やトンボを捕りに川まで夢中で走っている。敏捷な孫の動きにはもう追いつけなくなっているけれど、何と楽しいことだろう。故郷の福井で昆虫採集に走った子供時代と、3児の母として走ったおっ母さん時代と、孫と走る婆時代と、60年の歳月を一緒にたに体感しながら走るのは、あと幾夏かしらと思いつつも、感謝の気持ちでいっぱいになる。

福沢諭吉の「福翁自伝」の中に「まず獣身を成して後に人心を養う」という一文がある。「獣身を成す」とは自在に暴れさせ健康な体をつくるということ。幼少期にあつて、また夏に

「獣身を成す」子供たちの夏に

あつて、この言葉は一層輝きをもつて感じられる。

少女時代の私の夏といえば野外活動一色だった。わが家の教育方針は「世界の奥地でも陽気に仲良く暮らす人」というシンプルなもので、ガールスカウトに入り、大学時代はワンダーフォーゲル部員として、野山でテント暮らしをしながらサバイバル術を学んだ。

家庭にあつては、父が「世界の民族料理」なる本を手で作る風変わりな料理を食べ、食後は父のオルガンで世界の民謡を歌い、世界各地を旅してみたいと夢をふくらませた。

35歳で発行部数900万部の生活情報紙の編集長をすること

参院議員 山谷えり子



〈やまたに・えりこ〉サ
ンケイリビング新聞編集
長、国務大臣(国家公安委
員長・拉致問題担当相)な
ど歴任。1男2女の母。

となつたが、編集視点の中心には、暮らしの中にある文化や自然とのつながりを大切にしたいという願いがあり、それはこうした少女時代の生活に端を発していたように思う。

また、国会議員になってからは、野宿しても世界のどこへでも参りますという心構えが役立って、活動範囲が広がっていったと感じている。

たとえば、イラクでの自衛隊の復興支援計画作りで砂嵐の中

ていく中、学習塾に子供を通わせるかゲーム漬けになるかの選択肢しかない夏休みの過ごし方には危機感を覚える。2週間以上のキャンプや農作業、ボランティア活動、スポーツ、青少年育成活動の充実を国、地方自治体が大きく予算をつけ、民間の力をいただきながら取り組める環境を作りたい。

教育問題といえば昨今は貧困や格差問題、またアクティブラーニング(主体的、協力的に学

を歩き回ったときも、灼熱のインド洋の補給艦「とわだ」や護衛艦上でも、アフリカ各地の女性と商品開発を考えたときも、自然と生活を大切にすることを育ててくれた幼少期の感覚あればこそこの感を深くしている。

夏休みは体験を通じて、子供たちが生涯にわたって汲めども尽きぬ泉を掘る時間となつてほしい。10年前の第1次安倍内閣で私は教育再生担当の総理補佐官として体験活動の充実を努めたが、社会がゲーム化し暴力的、利那主義的傾向が強まる中にあつて、現状の課題は深刻で、より一層取り組まねばならないの思いを強くしている。母親が働く核家族が多数となつ

ぶ学習)の論議が盛んであるが、体験基盤をしっかりとするという根本を中心にしなくては人は育たない。知徳体育のバランスと充実、心の眼を開く体験学習の強化、幼児教育と実学振興の取り組みを前進させよう。

この原稿を書いている私の横で孫は、「キャンプだホイ、キャンプだホイ」と2度目のキャンプを前に陽気に歌っている。人生は楽しいことばかりではない。思い通りいかぬことや、不便を耐え、工夫し、役割を果たし、受容と寛容の中で人生の意義と喜びを知る。ゲームやスマートフォンから離れて「獣身を成して人心を養う」子供たちの夏に祝福あれと祈っている。

■ 麻 乱 答 解 ■